津村重舎　篇2

良薬は必ず売れる！

津村重舎は、現在の榛原池上の出身です。父、山田安治郎の実弟が津村家に婿入りしており、その関係で津村家と養子縁組を行い、津村姓となりました。

重舎の実兄に山田安民がいます。山田安民は、信天堂山田安民薬房（現在のロート製薬の前身）の創業者です。山田安民については、改めてご紹介することとしましょう。

重舎は、東京で製薬の研究を行ったのち、明治 26 年（１８９６）に「中将湯本舗津村順天堂」（現㈱ツムラ）を創業、東京日本橋に店を構えて婦人用の煎じ薬「中将湯」の販売をはじめました。「良薬は必ず売れる！」と創業後20日も経たないうちに、郵便報知新聞に広告を出しました。明治 28 年には、日本で初めてガスイルミネーションを使った看板も掲げました。他にもアドバルーンを用いたりするなど、様々なアイデアで、広告や販売促進戦略を進め、後に「ＰＲの天才」とも呼ばれるようになりました。

重舎は郷土の宇陀に幾つかの足跡を残しています。そのひとつに『神武天皇聖跡案内図』（昭和13年）があります。宇陀に伝えられている神武天皇ゆかりの伝承地を全国にアピールするために画家の吉田初三郎に製作を依頼しました。この案内図は、『古事記』、『日本書紀』に登場する神武天皇の故地・地名のうち、宇陀地域に関係するものを当時の地図上に重ねあわせたもので、斜め上空から一望できるように描かれており、昭和 13 年当時の宇陀地域の様子も知ることができます。この『神武天皇聖跡案内図』の複製を市役所1階に展示していますのでご覧ください。なお、同種の『神武天皇聖跡案内図』は、堺市博物館や国会図書館にも収蔵されています。